

様式第 3

会 議 録

会 議 名	令和元年度第 1 回野田市行政改革推進委員会
議題及び議題毎の 公開又は非公開の別	1 平成 3 0 年度の野田市行政改革大綱実施計画の 取組状況について(公開) 2 教育委員会に属する事務の管理並びに執行管理 の点検及び評価について(公開)
日 時	令和元年 8 月 5 日 (月) 午後 1 時 3 0 分から午後 2 時 5 0 分まで
場 所	市役所高層棟 8 階 大会議室
出席者氏名	会 長 山本和也 副会長 田中かよ子 委 員 小松栄、染谷よし江、津佐清、中野祐三郎、 谷田貝しづ子、山崎清、横川しげ子 事務局 佐藤裕(教育長)、齊藤弘美(水道事業管理 者)、上原正夫(市政推進室長)、中沢哲夫 (企画財政部長)、佐賀忠(総務部長)、牛島修 二(市民生活部長)、山下敏也(自然経済推進部 長)、柏倉一浩(環境部長)、坂齊和実(土木部 長)、平野紀幸(児童家庭部長)、長妻美孝(学 校教育部長)、宮澤一弥(生涯学習部長)、生嶋 浩幸(企画財政部次長兼企画調整課長)、富 山勝之(総務部次長兼人事課長)、大塚盛也(市 民生活部次長兼市民生活課長)、富山芳則(保健 福祉部次長兼生活支援課長)、船橋高志(学校 教育部次長兼学校教育部課長)、山田桂一(指 導課長)、戸塚進(教育総務課長)、川野尚 武(生涯学習課長)、横島司(興風図書館長)、 渡邊宏治(行政管理課長)、大久保崇雄(行政管 理課長補佐)、宮山誠(行政管理課長補佐)、平 出知之(行政管理課事務管理係長)、島津奈身 (行政管理課事務管理係主任主事)、古谷尚久 (行政管理課事務管理係主任主事)

欠席委員氏名	江原正子
傍聴者	無し
議事	第1回野田市行政改革推進委員会の会議結果（概要）は、次のとおりである。
行政管理課長補佐	令和元年8月5日午後1時30分、開会を宣言し、会議の成立について報告した。会議の公開及び傍聴並びに会議録及び会議資料の公開について説明した。 会議録作成のため録音機を使用することについて了解を得た。
山本会長	議題1 平成30年度行政改革大綱実施計画の取組状況について（公開） 平成30年度行政改革大綱実施計画の取組状況について事務局の説明を求めた。
行政管理課長	<資料に基づき、平成30年度行政改革大綱実施計画の取組状況について説明>
山崎委員	総括表1ページの全体総括から2点ほど質問したい。 2行目に「現行の行政改革大綱の方針では対応が難しい事務事業が存在してきた」とあるが、具体的にどのような事務事業なのか。 また、今まで以上に市民サービスの向上が重要であり、そのために場合によっては一定の財政支出が必要になるといった記載がある。昨年度に行われた行政改革大綱見直しに係るパブリック・コメント手続の意見では、市民サービスの定義が不明確であることや市民サービスの必要度のランク付けをどのように行っているのかという指摘があった。私はその意見に賛成する立場であり、市の財政が非常に厳しい中で、場当たりの施策を進めるということではなく、メリハリの効いた施策展開が必要と考える。資料に記載がある今まで以上に市民サービスの向上が必要ということは具体的にどのようなことなのか。また、財政規律との整合性をどのように考えているか。
山本会長	まず、事務事業の内容について具体的にどのようなものか。それから、市民サービスの向上についても具

<p>行政 管理 課 長</p>	<p>体的な内容を聴きたい。</p> <p>例えば、保育所等への指定管理者制度の導入についても、今までは指定管理者制度を導入しようとして進めていたが、待機児童対策等のため保留にした。また、自治会等の関係では、自治会の加入者数がなかなか増えないという問題も、事務事業の全体の見直しの中で対応することになり自治会長等に対するアンケートを実施した。</p> <p>このような環境の変化があるため、基本的に大綱を作成して終わりではなく、常に見直さなければならないということで「社会情勢の変化」と記載した。</p> <p>また、そのような考えに基づき昨年度に11回ほど審議していただき、行政改革大綱の見直しを行い、新しい行政改革大綱に基づき行政改革を行うことになった。</p>
<p>山 崎 委 員</p>	<p>今の話は1点目の回答だと思うが、市民サービスの向上が重要ということについて、具体的な決め方及び財政規律との整合性をどのように考えているのか。</p>
<p>行政 管理 課 長</p>	<p>市を取り巻く環境も変わっており、例えば児童虐待対策についても、市として対応しなければいけないと考えている。また、本年10月から実施される幼保無償化の影響により、公立幼稚園の在り方等も見直していなければいけない。市民サービスについて、全ての事業を把握していることではないが、ますます要望が多様化、複雑化していると認識している。そういった中で、行政改革についても市として十分に取り組む必要があると考えている。</p> <p>財政規律との整合性だが、基本的に市民サービスとして応えていくためには金銭が必要だと意識している。まず、市民サービスを行うのは職員であるため人件費が掛かる。新しい行政改革大綱でも記載したが、今後については、会計年度任用職員や再任用職員を併せて配置し、なるべく経費を掛けずに対応していきたいというのが基本的な考え方である。</p>
<p>山 崎 委 員</p>	<p>市民の要望が多様化しており、それら全てに対応すると当然財源の問題が出てくる。そのため、今様々な</p>

行政 管理 課 長	<p>市民サービスや施策があると思うが、それぞれの施策を市民がどう受け止めているか。場合によってはその費用対効果等を検証しながら、必要度の低いものを続けるということではなく、場合によっては一旦立ち止まって中止をする必要がある。中止して、その財源を新規の施策に振り向けるといったことを財政規律との整合性と考える質問させていただいた。新たな財源を持ってくるということではなくて、現状が肝心であり、限られた財源の中で上手く優先順位やメリハリをつけて、その中でのやりくりが必要と考える。</p> <p>今の意見について、市としても基本はスクラップアンドビルドだと考えている。そういった前提があるが、なかなか応えなければならない要望も多いので、そういった中で、いろいろ工夫していかなければならないと考えている。</p>
山 本 会 長	<p>多様性がますます広がっていく中で、優先順位を決めていくことが必要である。</p>
津 佐 委 員	<p>総括表1ページで公募委員について、本年度は一つを除いては募集定員を超えているとあるが、いくつの審議会で募集したのか。審議会の数が幾つなのかを前提に書くべきだと思う。</p>
行政 管理 課 長	<p>本年度は五つの審議会で公募委員を募集している。基本的に公募委員の枠を拡大ということで、二人ということで枠を設定しているが、五つの審議会で公募をした中で、四つの審議会は二人以上の応募があった。今まで公募委員は定員割れすることがあり問題視していたが、本年度は五つのうち四つについては、予定した応募者数を満たした。1か所だけ残念ながら、一人しか応募がなかった。そのため、引き続き周知活動を続けていきたい。</p>
山 崎 委 員	<p>同じページだが、市民の協働で自治会長等を対象としたアンケート調査を実施とあった。これは、いつ頃実施したのか。分析が遅れているようだが、こういった調査の分析は、速やかに実施をして、その結果を自治会連合会等に早めに提示をした方が良い。そして、その中の課題に対して、今後どう対応していくか、速</p>

市民生活部次長

やかに検討しなければならない。時間ばかり掛かって、例えば半年遅れで分析したといっても、タイムリーではない。そのため、このアンケートがいつ実施されたか教えてほしい。

自治会長を対象に、今年の1月15日から2月15日までアンケート調査を行った。市には、400近い自治会があるが、そのうち341団体から回答を頂き、約87%の回答率であった。そのアンケート等を分析し、その結果について、担当課と調整している。そして、自治会との話を継続するために、まずは自治会連合会との協議ということで、7月26日に市としての考えのまとまったものについて提案した。

今後は、個々の自治会の意見の吸い上げられるような形を検討しながら進めていきたいと考えている。

津佐委員

取組状況の6ページの外郭団体等の見直しには野田市開発協会の部分があり、担当各位の努力は読み取れる。取組内容について、基本的には入場数が増えて、黒字になったという総括である。しかし、内訳を見ると30年度は29年度に対して、ひばりコースの営業日数が23日増えている。また、けやきコースの場合も8日増えている。そのため、一日当たりのプレーヤー数で考えると、ひばりコースは約5.6人減であり、二組弱のマイナスとなる。一方、けやきコースは約5.1人増となる。天気が良かったこともあり、二千何人増えたという総括ではなく、稼働日数に対して、一日当たりどうだったのかという分析が必要ではないか。一生懸命取り組んでいるのは分かるが、実態は一日当たり5.6人減っている。それはなぜかということを考えていかなければならない。けやきコースの場合は5.1人増えたが、昨年度の行政改革推進委員会でも発言したとおり、まだ空きがあるのではないか。そういった意味で、プレーヤーをどうやって増やしていくか、どうして減ったのかという分析はないのか。退職金の問題などもあるし、天気にも大きく左右されると思うが、これから少子高齢化が進んでゴルフ人口も減っていく。そのため、取り組むのは大変だが、入場者

山 本 会 長	<p>の総数が増えていることで分析を終わらせず、一日当たりの人数は減っているという厳しいところも見つけていかないとならない。今後の展望や新しい取組に反映されていかないのではないかという危惧がある。</p> <p>野田市開発協会の件は、次回の行政改革推進委員会の議題であり、その際には、具体的な数字の出し方について説明してほしい。</p>
山 崎 委 員	<p>定員の適正化について、30年度当初の人数が1,007人であり、この部分については昨年度の行政改革推進委員会でも議論している。その際に、市全体で再任用職員が27人在籍にしているが、再任用職員は短時間勤務のため、この中には含まれていないという回答があった。それに対して、これから年々再任用職員が増えていくため、正規職員だけではなく、再任用職員を含めた定数管理が必要ではないかという問題提起を行った。例えば、半日勤務の場合は0.5人にカウントするなどの換算方法により、再任用職員も定数管理の枠の中に含めた方が良いのではないかと。正規の職員だけがこれだけ減っているということではなくて、いろいろな方法があると思うが、そういった換算法を用いるなどの工夫をした定数管理の中での改善が行政改革と考えられる。今の形では少し不十分と感じる。今発言したような考え方を検討してほしい。</p>
行 政 管 理 課 長	<p>今回、示したのが30年度を取組状況であり、昨年度の審議前の目標となっている。その時には、正規職員のみ目標数であったため、今回は正規職員のみで計上した。</p> <p>本年度中に、再任用職員及び会計年度任用職員を含めた形の来年度以降の職員数を検討していく。そのため、今の意見も十分考慮したい。</p>
山 本 会 長	<p>山崎委員の意見のとおり、再任用職員が徐々に増えていくと思う。そのため、そういったことも考慮してほしい。</p> <p>平成30年度行政改革大綱実施計画の取組状況について事務局の説明を了承することで良いか問う。</p> <p>&lt;異議無し&gt;</p>

	議題 2 教育委員会に属する事務の管理並びに執行管理の点検及び評価について
山本会長	教育長に挨拶を求めた。
教育長	<挨拶>
山本会長	教育委員会に属する事務の管理並びに執行管理の点検及び評価について事務局の説明を求めた。
生涯学習部長	<資料に基づき、教育委員会に属する事務の管理並びに執行管理の点検及び評価について説明>
山崎委員	市で起きた児童虐待事件についてあまり触れられていない。児童虐待の再発防止に向けた取組状況等を追加してはどうか。教育委員会の点検・評価として考えると少し欠けている気がする。
津佐委員	今の意見に関連して、目標 1 に (5) いじめ防止対策の推進とあるが、そこに虐待防止対策ということで入れてはどうか。いろいろなプロジェクトが動いていると思うが、教育委員会の一つの指標として、そこに項目を立てるべきではないか。
教育長	今回の点検・評価は、30年度当初に作成した基本方針を対象として作成している。31年度の基本方針では具体的な施策として「いじめ防止・虐待防止対策の推進」という項目を立て、指導体制をしっかりと確立していく、あるいは虐待防止に関する教職員の研修をしっかりと行っていく等の対策を講じている。
山崎委員	今回の点検・評価の中の「今後の対応」のところ、今の発言の内容が記述されているか。もし新たな課題ということであれば、その課題を記述しないとこれまでの活動との整合性が見えないのではないか。
教育長	意見のとおりであるため、その辺の整合性について、きちんと対応する。
山本会長	教育委員会に属する事務の管理並びに執行状況の点検及び評価について了承することで良いか問う。
	<異議無し>
山本会長	その他、連絡事項の有無を事務局に問う。
生涯学習部長	頂いた意見を反映させた形で9月議会に報告書として提出する。
行政管理課長	<今後の予定をお知らせする>

山 本 会 長

午後2時50分、閉会を宣言した。

以上